



図Ⅱ-2 周辺の遺跡 (この図は国土地理院発行20万分の1地勢図「天塩」を複製、加筆したものである) ×1

Ⅲ 確認した遺構の現況

1 堅穴群の現況

平成17年度から平成19年度の3か年の調査で、確認し位置を記録した堅穴は総数663軒である。堅穴のまとまりとして確認できた範囲は30か所である。

これまでの調査で6000区～4000区の踏査がほぼ終了し、3000区と音類橋北側の一部の踏査を行っており、踏査予定範囲の3分の1強が終了している。

堅穴は、サロベツ川に面する砂丘上の北東－南西方向へのびる尾根上に多く立地している。一部は尾根から湿地へ向かう低位部にも見られる。分布は6000区の「大曲地区」周辺が最も多い。この地域はサロベツ川が砂丘に最も接近する場所である。サロベツ川が砂丘から遠ざかる5000区では少なくなり、再び砂丘に近づく4000区では「1号チャシ地区」「H19-1地区」など、堅穴が増加する傾向がうかがえる。また、4000区では「H18-9・10・11地区」のように、従来堅穴が存在しないと考えられてきた砂丘列の日本海側で堅穴が確認されている。「大曲地区」「1号チャシ地区」については、堅穴密集地区として周辺地形の詳細測量および堅穴測量を実施した。また「2号チャシ地区」の詳細測量を平成19年度から実施し、平成20年度も継続する予定である。

(村田)

大曲地区

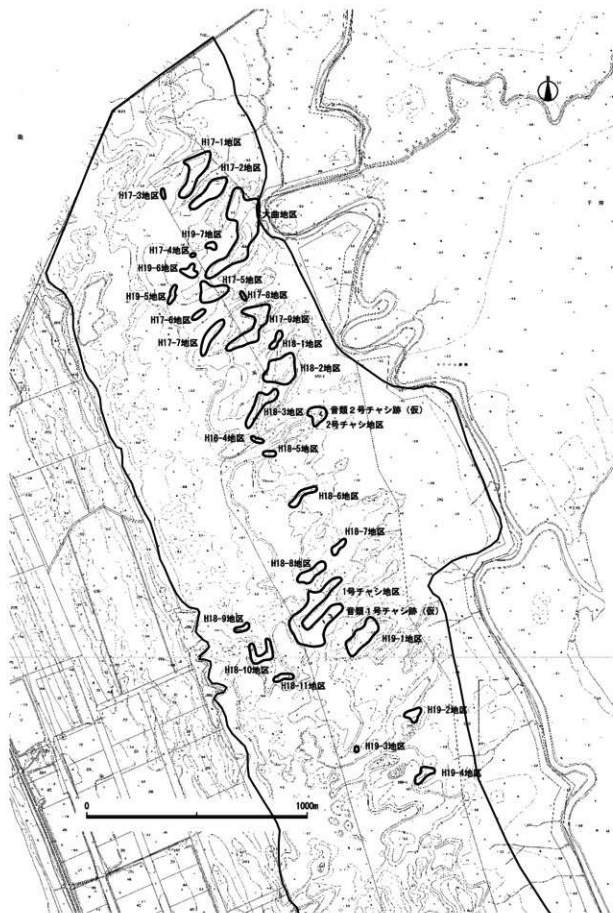
本地区は遺跡範囲内の北部に位置する。林班杭14番が地区範囲の南西端にあたり、北側約50mにはH17-2地区、西側約80mにH19-7地区が所在する。南端部分はH17-5地区、H19-6地区と近接し、北東端はサロベツ川と接する。

地区範囲は南西から北東方向に細長く、北東端では西に広がる。長軸方向が約450m、幅の細いところで50m、広いところで150mの距離がある。地形は二つの尾根からなり、林班保安路E14杭から北東方向に弓なりに延びる尾根（「1号尾根」とH17-2地区に平行する島状の独立した尾根（「2号尾根」）である。起伏に富んだそれぞれの尾根の中にも谷状の低地やピークがいくつか見られ、また両尾根の間には大きな谷状の湿地域がある。

堅穴はNa0001から0092、0100から0133、0151から0193、0466、0467、0480から0498までの190か所で確認された。堅穴集中か所としてはH17-2地区の60か所をはるかに上回る最多数である。これらの堅穴群はその集中状況と地形との関連により1号尾根の北部、中部、南部と2号尾根、1、2号尾根間の谷部の5つに区分することができた。

「1号尾根南部」は幅約40～50mの南西－北東方向に細長い尾根状の地形になっている。堅穴はNa0105～0129、0466、0467、0495～0498の計31か所で確認されているが、細い尾根筋上の平坦面を利用して列状の配置を見せるのが特徴である。中には0107、0128、0129のように尾根の中でも独立したピークの頂上に立地するものも見られた。堅穴の規模は一辺2mの小規模なもののから一辺6mの大規模なものまで様々であるが、Na0123と0124、0121と0122の組み合わせに見られるような大小がセットとなる場合も見られた。また、Na0105、0466、0467は地区内南側で東方向に5～60m枝分かれした尾根上に立地し、規模の大きな0466が尾根の中心の平坦面上に築かれ、小さな0105、0467が尾根の付け根のわずかな平坦面を利用して築かれている。

「1号尾根中央部」は南部に比べ尾根上の幅が広がり、長軸約150m、幅70～100mの北北東から南



図Ⅲ-1 確認した懸穴群



図Ⅲ-2 大曲地区竖穴位置図

南西方向に細長い尾根上の地形である。尾根にはNa0100の立地するピーク（南ピーク）とNa0062の立地するピーク（北ピーク）の標高10mのピークが二つあり、北端、南端ともに比高差3～4mの谷によって区切られている。堅穴の分布もこの南北二つのピークを中心に広がっている。この南ピークには堅穴Na0106を頂点にした周囲に0083、0101～0104、0130が緩斜面上に立地する。南ピークの北東には北ピークとの間に谷状の地形が広がり、その谷底の平坦面を利用してNa0069～0085、0092の18か所で堅穴が確認された。また、北ピークには堅穴Na0062を頂点とした周囲に0003～0006、0057～0061、0064～0068、0083、0089、0090が緩斜面上で確認され、北ピーク北側緩斜面の末端には、「1号尾根北部」側を見下ろすように西からNa0008、0007、0009、0010、0091、0002、0001、0088、0133、0132の堅穴が弧を描くように1列に並ぶ。0008～0002までの北側は比高差4.0mの急崖で、0001～0132までの北東側はサロベツ川の河畔までつづく緩やかな斜面となっている。また、「北部」と「中央部」とを区画する谷地形の中では、Na0001と0053の間でブリッジ状の高まりが見られ、その中央東寄りに中型の堅穴0087が確認されている。

「1号尾根北部」はNa0053堅穴をピーク（「53ピーク」）とする緩斜面と南西から北東方向に延びる幅30mの尾根（「本尾根」）とからなる。南端は楕円状にくぼんだ湿地とサロベツ川から入り込む谷によって「1号尾根中央部」と区切られている。地区内でも堅穴の密集度が最も高い地域である。

一辺13mを測る地区内最大の堅穴Na0053はピークの頂点に独立して立地し、その周囲を取り巻くようにNa0028、0032、0033、0052、0054、0086のような一辺10m前後の大規模な堅穴が緩斜面上に立地する。

北東方向に延びる尾根上では、南半部分に0011～0019、0021～0027、0029～0031の堅穴が上下2段のテラス状の斜面上に北西向きに2列並ぶかたちで確認され、北半部分ではNa0037、0038、0043、0483、0487～0490などの規模の大きな堅穴が尾根の平坦面上に確認された。

「2号尾根」は地区範囲の北西端に位置し、南西から北東方向に延びる長さ150m、幅40mの尾根と周囲の緩斜面からなる。中央部には標高約7mのピークがあり、このピークを中心に堅穴が集中して見つかった。堅穴Na0171、0177～0183など大小の堅穴がピークの平坦面上に立地し、その北側の細い尾根筋上には0184～0190、0480、0491が立地する。また、ピークの南側の緩斜面上にはNa162～170、173～176の堅穴が確認された。さらにピークの南東側は比高差2mの崖になっており、崖下の低地部平坦面上にNa0155、0159、0160、0172などの一辺10m前後の大型の堅穴が湿地際で確認された。

「1号尾根」と「2号尾根」間の低い谷状部分は背の高い笹で覆われて、一部湿地化しているが、この低い平坦面の中にNa0481、0484～0486の4か所で堅穴を確認した。特にNa484、485は一辺10mに及ぶ大型の堅穴である。

（藤井）

H19-7 地区

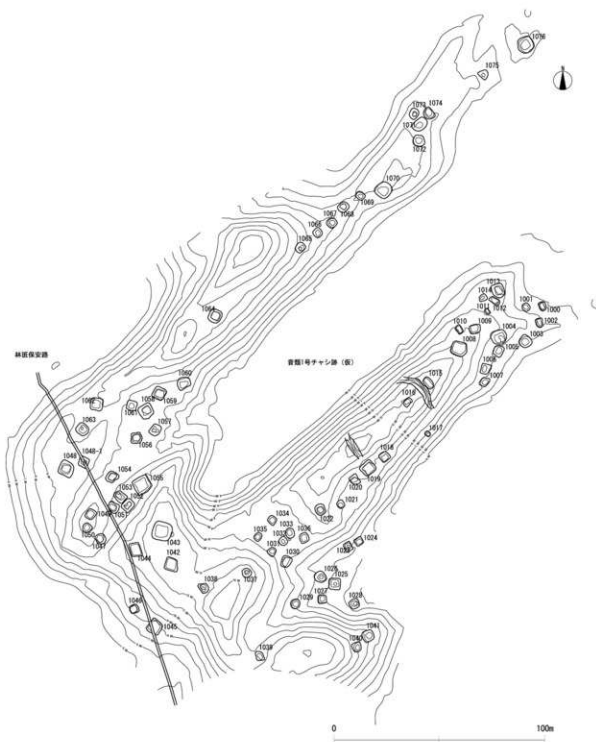
本地区は遺跡範囲内の北部、大曲地区の南部分から約80mのところの位置する。北方向200mにH17-2地区、南西方向50mにH17-4地区、北東から南西方向にかけてとりかむように「大曲」地区が位置する。立地はH17-4地区からのびる緩斜面の延長部で、円形の島のような独立したわずかな高まりがこの範囲にあたる。

堅穴はNa468から472までの5か所で確認された。いずれも4～5m四方の中規模の堅穴である。（藤井）

1号チャシ地区

平成17年度の調査で確認した。「音類1号チャシ跡(仮)」の地形測量を含め、竪穴群の詳細測量を平成18・19年度の2カ年で行った。測量中に確認されたものも含めこの地区では、81軒の竪穴を確認した。竪穴は北東—南東方向にのびる2つの尾根とその基部に立地する。いくつかのまとまりに分けることができる。音類1号チャシ跡(仮)のある南東側の尾根、基部、北西側の尾根の順に記述する。

Na1000～1007、1011～1013の12軒は、南東側の尾根先端部の平坦面に立地する。Na1003・1004・1013が大型のもの。Na1008は尾根上の先端部にある大型の竪穴で、直下の斜面部に小型のNa1010と中型の

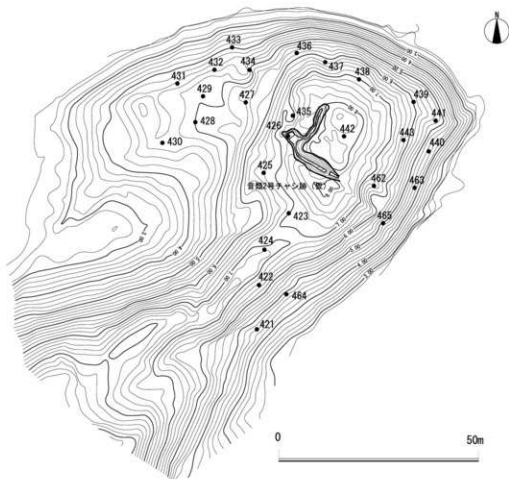


図Ⅲ-3 1号チャシ地区竪穴位置図

1009が隣接する。No1015～1022は尾根上から南東側の斜面に立地するまとまりである。No1023～1029は湿地が入り込み湾状の地形となる低位部に立地している。深いものが多い。No1030～1036はすべて中型のもので、尾根基部の平坦面に密集している。この平坦面より1段高い平坦面には、No1042～1043の比較的大型の3軒が位置する。南西側の湿地に面する斜面にはNo1045とNo1046の2軒が隣接して斜面に立地する。北西側の尾根基部の平坦面には、No1047～1063、1166の18軒が位置している。北西側尾根の中ほどに、大型の堅穴No1064が単独で立地する。No1065～1070はほぼ等間隔で細い尾根上に位置する。No1070は大型のもの。湿地へ至る斜面部にNo1071～1074の4軒が密集する。湿地に近い先端部には、No1075と1076の2軒がある。この2軒の間を開拓道路が通っている。(村田)

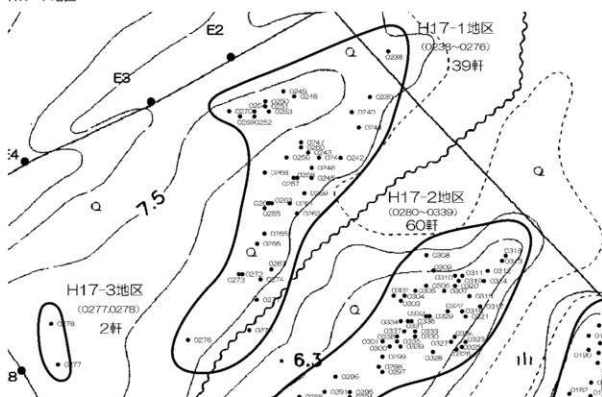
2号チャシ地区

27軒の堅穴を確認した。H18-5地区から北東方向へのびる尾根の先端部に位置する。この尾根は周辺のものとは異なり、先端部にピークをもつ尾根で、この周辺に堅穴が位置する。堅穴確認作業中に、「L」地状を呈する、チャシ跡と考えられる溝を発見したため、2号チャシ地区と呼称することとした。この地区は、平成19・20年度で詳細地形測量および堅穴測量を行う予定であるため、今回は、堅穴の概略を記す。No0421～0426、0435～0443、0462～0465は2号チャシのあるピーク周辺の斜面部に立地する。尾根の北側に広がる緩斜面にはNo0427～0434を確認した。(村田)



図Ⅲ-4 2号チャシ地区堅穴位置図（継続測量中）

H17-1 地区



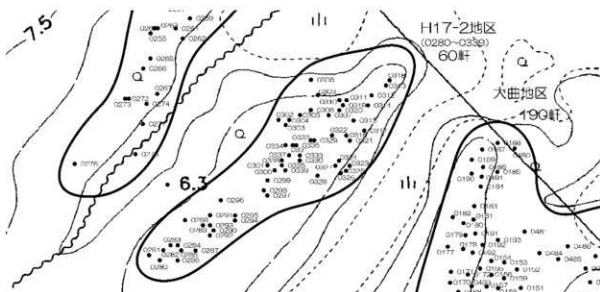
本地区は遺跡範囲内で最も北に位置する。沢を挟んだ南側約50～100mの位置にほぼ並行して H17-2 地区がある。長軸250m、短軸50～100mの範囲で、立地は南西から北東方向に突き出すように延びる尾根の部分にあたる。尾根は林班保安路側では1本の幅の広い筋となっているが、東に向かうに2本、さらには3本と細かく枝分かれし、低い谷と高い尾根筋とが複雑に入り組んだ地形となる。サロベツ川側に面する北東端では全ての尾根筋が弧を描くようにして重なりあう。

堅穴はNa0238から0276までの計39か所で確認された。堅穴集中か所としては「大曲地区」、H17-2 地区に次ぎ、H17-9 地区に並ぶ数である。Na0265～0267、0271～0277は範囲内南半部分に位置し、1本の幅広い尾根筋上に立地する。南面するものが多い。Na0239～0242、0244、0245、0257～0264は地区範囲の中央部分に位置し、枝分かれて細くなった2本の尾根のうち南の尾根筋（南尾根）上に立地する。Na0240、0246、0247、0255、0256は2本の尾根間に挟まれた低い谷底内に立地する。笹やぶが高く確認が難しいが、一辺5m前後のやや大型のものが多い。Na0248～0253、0268は枝分かれて細くなった2本の尾根のうち中央の尾根筋（中央尾根）上に立地する。Na0254、0269、0270は地区範囲の北半分西隅に位置する。この付近は枝分かれて細くなった尾根が3本の筋となり、そのうちの最も北よりの尾根筋（北尾根）上に立地する。Na0238は地区範囲内の北東端に位置しサロベツ川の湿原を望む尾根の頂上に立地する。

地区内で確認された堅穴は一辺5mを超える大型のものがほとんどなく、一辺4m以下の中～小型のもので占められる。(藤井)

H17-2 地区

本地区は遺跡範囲内の北側、北西の H17-1 地区と南東の大曲地区との間に位置する。H17-1 地区とは沢を挟んで約50～100m、大曲地区とは沢を挟んで約50mほどの距離がある。地形は、単独で所



在するNo0279の立地する尾根とは湿地で区切られており、西南西から東北東に延びる長軸200m、短軸100mの細長い楕円形をした島状の尾根となっている。この尾根は林班保安路側では1本の細い筋となっているが、地区範囲内中央部では北側、南側に広い緩斜面を伴った幅広い尾根となり、北東部ではさらに北東に延びる幅10mに満たない細い尾根筋と、北西に広がる緩斜面とに大別される。

堅穴はNo0280から0339までの計60か所確認された。現在確認されている堅穴集中か所としては「大曲地区」に次ぐ数である。堅穴は尾根筋の中央周辺に分布し、細かな起伏にともなう小さなまとまりも確認された。

地区範囲の南半部は堅穴のまとまりが明瞭で、約15mほどの空白をはさんでNo0280～0287、No0288～0293、No0294～0296の3つのグループを確認することが出来た。No0280～0287は地区範囲内の最南西端に位置し、細い尾根筋の平坦面上付近に立地する。堅穴の規模も一辺3～5mの中規模のもので径約30mの範囲内に集中している。No0288～0293も細い尾根筋の平坦面上付近に立地し、堅穴の規模も一辺4～6mのやや大型のものが多い。No0294～0296も細い尾根筋の平坦面上に立地し、一辺4～5mの中規模の堅穴群である。

地区範囲中央部は、細い尾根筋が南側と北側に緩斜面を伴って大きく広がるのに伴い、堅穴の分布も広範囲に及んだ。No297～301、315～317、321～339は尾根上の平坦面から緩斜面上に立地し、中には315～317、328のように緩斜面最下端、湿地際の低い位置に築かれたものも見られた。堅穴の規模は様々であるが、一辺6mを超える大規模な堅穴が多く見られたのも特徴である。

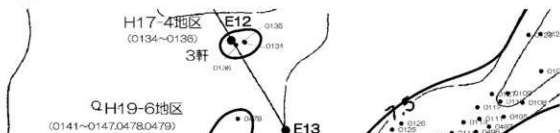
地区範囲北東部は北東方向と北西方向に尾根が分かれ、北東方向の細い尾根には0312～0314、0318～0320が、北西方向にわかれた緩斜面上の尾根には0302～0311が立地する。北西方向の緩斜面のグループの中には中央部同様、斜面の最下端、湿地際のかなり低い位置に築かれたものも見られた(0302、0304、0307)。(藤井)

H17-3 地区

本地区は遺跡範囲内の北部、林班杭8番周辺に位置する。東方向70mのところにはH17-1地区がある。地形はH17-1地区のある北東方向にのびる尾根の奥部にあたり、尾根筋の上下で約3mの差がある急傾斜となっている。

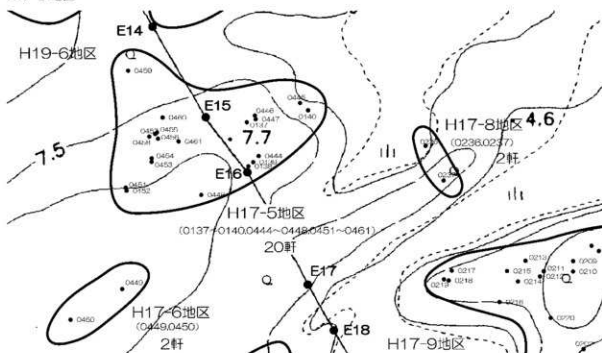
竪穴はNo0277、0278の2か所で確認された。0277は急傾斜の低い部分、0278は尾根筋の頂上部分のわずかな平坦面に立地する。
(藤井)

H17-4 地区



本地区は遺跡範囲内の北部、林班杭12番付近で、東のH19-7地区、南のH19-6地区との間に位置する。地形は標高約8mほどの平坦面で、北東方向に舌状に大きく張り出す緩斜面となっている。竪穴はNo0134から0136までの3か所で確認された。いずれも形状は不明瞭であるが、一辺約3m前後の小規模の竪穴である。
(藤井)

H17-5 地区



本地区は遺跡範囲内の北部、林班杭15番付近に位置する。北には大曲地区の南東端、北西にはH19-6地区、南西にはH17-6地区。南東にはH17-8地区がある。地形は南西から北東方向へ大きく張り出す舌状の緩斜面であるが、細かな起伏も見られる。林班保安路の東側は広い緩斜面が広がる(「本尾根」)が、その西側は南から「南尾根」「中尾根」「北尾根」の3つの細い尾根に分かれ、その間には小さな谷がつくられている。「北尾根」は谷を取り巻くようにして「大曲地区」の立地する尾根と連続している。

竪穴はNo0137から0140、0444から0448、0451から0461までの20か所で確認された。No0137~0140、0444~0447は「本尾根」の緩斜面上に分布する。林班保安路の西側では0448が「南尾根」上、0451、

0452、0455、0456が「中尾根」上、0459～0461が「北尾根」上に立地する。「南尾根」と「中尾根」との間の小谷底には0453、0454の中規模な堅穴が、また「中尾根」と「北尾根」との間の小谷底には0457、0458の小規模だが深く掘り込まれた堅穴が確認された。
(藤井)

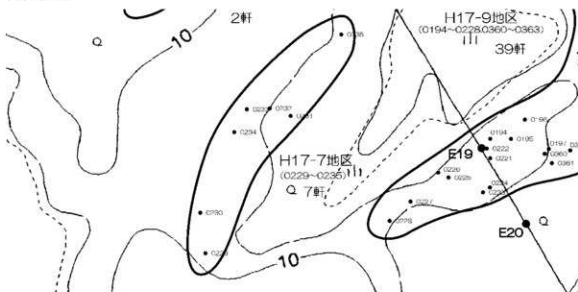
H17-6 地区

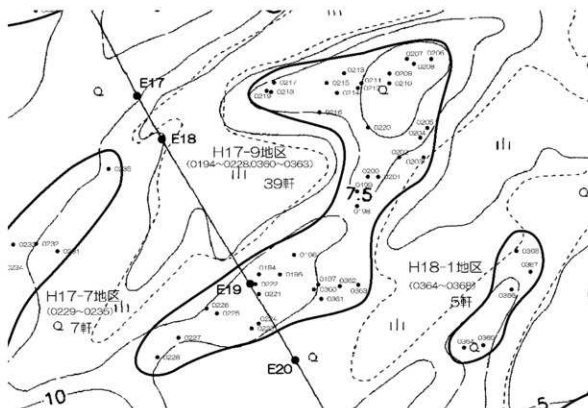
本地区は遺跡範囲内の北部、林班杭16番の南西約80mに位置する。北にH17-5地区、北西にH19-5地区、南にH17-7地区がある。地形は標高約10mの緩斜面上である。

堅穴はNa0449、0450の2か所で確認された。いずれも尾根上に立地し、中規模の堅穴である。

(藤井)

H17-7 地区





に延びる尾根（「本尾根」）とその北で東から西に細長く延びる独立した島状の尾根（「東西尾根」）との2つのピークからなる。2つの尾根は北北東-南南西方向にのびる細尾根により途切れることなくつながっている。また、「本尾根」には林班路 E19杭周辺から東方向にのびる細尾根が伴っている（「支尾根」）。

堅穴はNo0194から0228、0360から0363までの計39か所で確認された。現在確認されている堅穴集中か所としては「大曲地区」、H17-2地区に次ぎ、H17-1地区に並ぶ数である。確認された堅穴は広範囲に疎らに分布するのが特徴である。

No0194～0197、0221～0228は林班路 E19杭を中心とした「本尾根」上に立地する。大半は幅約10mほどの細尾根上に列を連ねるかたちで分布する。それぞれの規模は様々であるが、一辺約4.0m程の中規模なものが多い。No0198～0205は「東西尾根」の南側張り出し部分に位置し、テラス状に張り出した緩斜面上に立地する。特に0202～0205については緩斜面の末端に位置し、湿地際の低い位置で確認された。No206～210は「東西尾根」の北東端に位置し、No209付近をピークとする北東側緩斜面上に立地する。堅穴の規模は大小様々である。No211～216、220は「東西尾根」の中央部に位置し、No209付近をピークとする西側の緩斜面上に立地する。いずれも一辺4.0mの中規模な堅穴のみである。No217～219は「東西尾根」の西端に位置し、尾根上の平坦面に立地する。いずれも一辺約3.0mの中規模の堅穴である。No360～363は「支尾根」上に立地する。中規模の堅穴がほとんどである。（藤井）

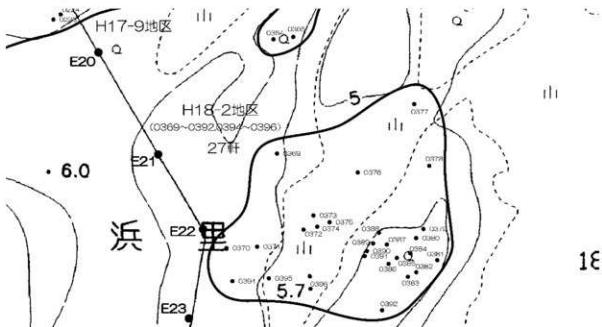
H18-1 地区

本地区は遺跡範囲内の北部、林班杭21番の北東約100mに位置する。北西約80mにはH17-9地区、南約50mにはH18-2地区がある。地形は林班杭22番付近からまっすぐ北東に延びる尾根上の標高約7mの地点に立地する。

堅穴はNo0364から0368までの5か所で確認された。いずれも幅の広い尾根上の平坦面に立地し、0367

は尾根の南側、0368が北側、その他は中央部に位置する。全ての堅穴が一辺5.0mを超える大型のもので、特に0368は一辺約8.0mに及ぶものである。大型の堅穴のみで構成される堅穴群という特徴が認められる。(藤井)

H18-2 地区



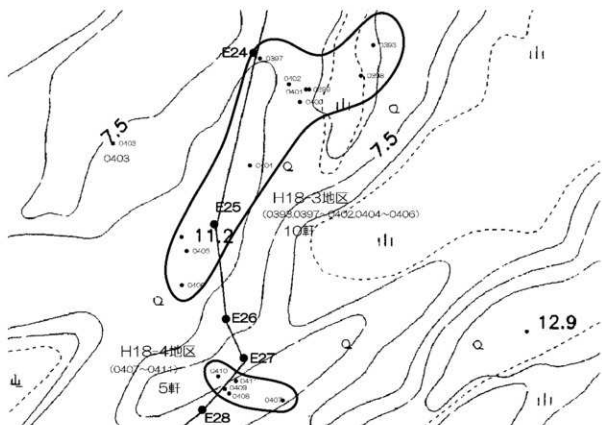
本地区は遺跡範囲内の北部、林班杭22番の東側に位置する。北約50mにはH18-1地区、南西約50mにはH18-3地区が存在する。地区範囲が林班保安路E25付近から北東方向に大きく二つに分かれる尾根をまたぐようにしてあるため、地形は2つの尾根とその間の谷底部分を含んでいる。2つの尾根はE22杭から北に延びる「西尾根」とE25杭から分岐する「東尾根」とになり、「東尾根」は北東端で大きく西に湾曲して「西尾根」を巻き込むようなかたちになる。

堅穴はNa0369から0392、0394から0396までの27か所で確認された。林班保安路E22杭に近い「西尾根」ではNa0369～0375、0394～0396が確認された。いずれも尾根筋上の平坦面を利用して築かれている。Na0379～0386は標高約8mほどの「東尾根」のピーク周辺に確認された。Na0376～0378は西に大きく湾曲して広がった「東尾根」の平坦面に立地する。また、「東尾根」と「西尾根」との間は小さな谷状の地形となり、その谷底でNa0387～0391の5か所の堅穴が集中して確認された。(藤井)

H18-3 地区

本地区は遺跡範囲内の北部、林班杭24番から25番付近に位置する。北約50mにはH18-2地区、東約200mには2号チャシ地区が存在する。地区範囲のほとんどは北東方向に延びる尾根上に立地するが、北東端部では低湿部分も含まれる。

堅穴はNa0393、0397から0402、0404から0406までの10か所で確認された。特にNa0397～0402は東方向に湿地を望む尾根上の平坦面に立地し、いずれも一辺5.0mほどの大型の堅穴である。(藤井)



H18-4 地区

本地区は遺跡範囲内の北部、林班杭27番から28番付近に位置する。北約50mにはH18-3地区が存在する。

竪穴は№0407から0411までの5か所で確認された。地区範囲の地形は尾根部と谷部からなっており、尾根の高い部分で№0408～0411、谷の部分で№0407が確認された。いずれも地形の細かな起伏と見分けが付きにくい部分があり、形状は不明瞭である。

(藤井)

H18-5 地区

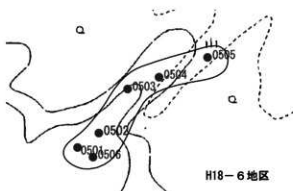


4軒の竪穴を確認した。H18-4区と2号チャシ地区へ続く尾根を挟んだ南側に位置する。現況は背丈が180cm前後の広い笹原となっており、過去に大規模に樹木が伐採された場所と思われる。№0417は西側を開拓道路に削平されている。№0418は大型で№0417と隣接している。平坦面に立地する。№0419・0420は大型で隣接している。

(村田)

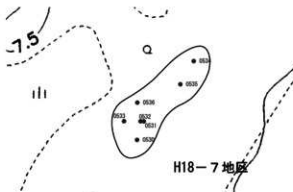
H18-6 地区

6軒の竪穴を確認した。林班杭35番付近から北東へ350mほど行った、細い尾根上に位置する。№0501・0502・0506は尾根の基部に相当する高み部分に立地している。№0501と№0502は隣接する。№



0501は一辺10m前後の大型のもの、Na0502は一辺1.5mほどの小型である。Na0506は確認した堅穴の中ではもっとも大きいと思われ、一辺15m前後である。南向きの斜面に立地し、南側の壁で、煙道が崩落したと考えられる溝状の凹みが2本確認できたので、おそらく2個の竈をもつ住居であろう。Na0503～0505は中型のもの。10mほどのほぼ等間隔で並んでいる。(村田)

H18-7 地区



7軒の堅穴を確認した。林班杭38番から北東方向へ450mほど入った尾根で確認した。北東-南東方向へのびる尾根で、北西側が高く急な斜面となっている。南東側は緩やかに傾斜している。南東側の緩やかな斜面にやや大型のNa0530と少し離れてNa0531・0532の中型の堅穴が並んでいる。北西側の高い位置に大型のNa0533と中型のNa0534が、尾根の先端部に中型のNa0535とNa0536が隣接している。この地区の南西側を開拓道路が削平し

ており、道路に面して平坦に整地されている。踏査した結果、径1m、深さ0.7mほどの円形の掘り込みや土管が見られたことから、民家の跡かと思われる。(村田)

H18-8 地区

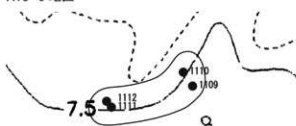


17軒の堅穴を確認した。H18-7地区とは開拓道路と湿地を挟んだ位置にあたる。北東-南東へのびる幅の広い尾根上地形で、尾根の基部は1段高い。北側の湿地へ向かって緩やかに傾斜しているが、南側は急な斜面が湿地まで続いている。尾根の基部の1段高い位置に中型だが深いNa0517が1軒ある。Na0516は湿地へ向かう低地部にあり大型で深い。Na0518は大型で他の堅穴とはやや離れている。Na0518～0529の11軒は、北側の湿地へ面

する平坦な部分に密集している。大半が中型のものである。(村田)

H18-9・10・11地区は、当初堅穴が存在しないと考えられていた、砂丘列の日本海側に位置する。1号チャシ地区より南側の踏査に利用できる進入路を探索するため、遺跡内を縦走する2本の林班保安路のうち、西側から湿原を横断して1号チャシ方面へ踏査した際に確認した。

H18-9地区



4軒の堅穴を確認した。Na1111と1112はともに中型で、隣接している。湿地へ向かう低部位に立地している。Na1109は大型で尾根上にある。Na1110は小型で北側の湿地に面する斜面に位置する。

(村田)

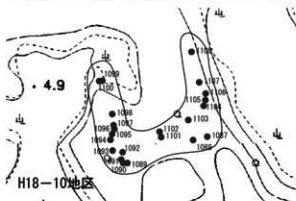


H18-10地区

22軒の堅穴を確認した。大きく3つのまとまりに分けることができる。Na1104～1108は、主に東

側の湿地に面する斜面部に立地している。Na1104～1106は斜面の低い位置にあり、3軒並んでいる。Na1104が中型でほかは小型である。Na1107は大型で深い堅穴で、1軒だけ尾根上に立地する。Na1108は湿地に近い低部位にある。Na1087・1088とNa1101～1103は湿地に面せず、砂丘の内部の高低2段の平坦面に位置する。低位の方はややくぼ地になっている。Na1087・1088は高位の平坦面に隣接して位

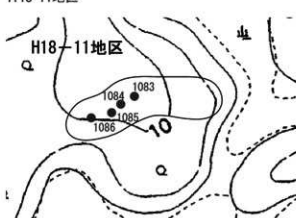
置する中型の堅穴である。Na1103は掘り込みが浅い堅穴。Na1101と1102は隣接する。Na1089～1100は北側の湿地へ向かってのびる細い尾根上の平坦面にある。南西側が高く北側へ緩やかに傾斜している。南西側の高みの斜面上にNa1089・1090・1091が隣接している。Na1091が中型でほかは小型である。北へ向かって、Na1093は一辺10m以上の大型で、小型のNa1092と隣接する。さらに北側で、大型のNa1096と小型のNa1094と大型のNa1097と小型



のNa1095がそれぞれ隣接している。やや離れてNa1098は小型で1軒ある。Na1099は一辺10m以上の大型のもので、小型のNa1100が隣接する。尾根の先端部にあり、ほとんど湿地と変わらない標高にある。

(村田)

H18-11地区



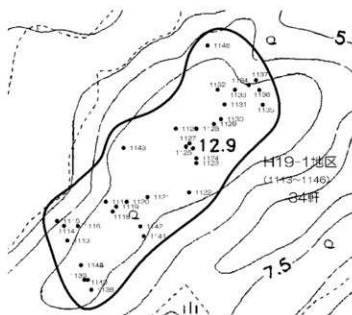
5軒の堅穴を確認した。中型のNa1082のみ尾根上に立地し、ほかは細長い盆地状のくぼみに4軒並んでいる。大型のNa1083と小型のNa1084、大型のNa1085と小型のNa1086がそれぞれ隣接している。

(村田)

H19-1地区

本地区は遺跡範囲内の中央部、1号チャシ地区の南側に位置する。チャシ地区とは沢を挟んだ対岸にあたり、南西から北東方向、サロベツ川に向

かって突き出す尾根上に立地する。尾根は長軸約300m、幅50から100mの範囲にあり、平坦面に乏しく、標高約13mをピークに緩やかな起伏を伴う地形となっている。また、尾根の中央部分には南北に

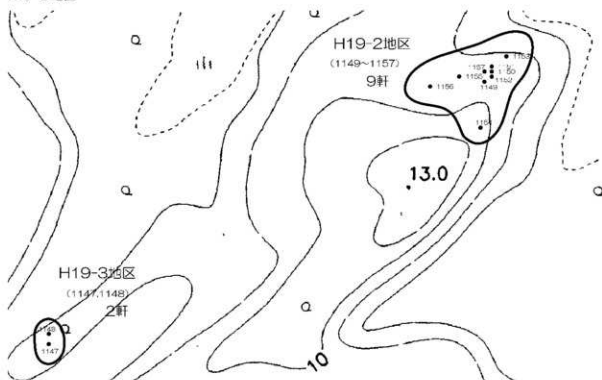


のびる幅約 3 m の開拓道路が築かれ、尾根を切るかたちで一部削平されている。

堅穴はNa1113からNa1146までの計34か所で確認された。1113～1122、1138～1143は尾根の西半分に集中し、広い平坦面からのびる緩やかな斜面部に立地する。開拓道路以東は尾根筋が樹枝状に細かく分かれるが、北側で広く発達した平坦面上に1123～1137、1144～1146を確認した。

(藤井)

H19-2 地区



本地区は遺跡範囲内の中央部、H19-1地区の南側に位置する。1地区とは沢と湿地を挟んだ対岸にあたり、約400mの距離がある。また、現在のサロベツ川河道から約500mの距離になる。地区範囲の西端を南北に横切るように開拓道路の跡が見られ、尾根の一部が削平されている。南西から北東方向、サロベツ川側に向かって突き出す尾根の北東端で、標高13mのピークからやや下がった斜面上で堅穴の集中を確認することが出来た。

堅穴はNa1149からNa1157までの計9か所で確認された。いずれも北東方向に向かって下る緩斜面のなかの平坦面に立地している。一辺4～5mの中規模の堅穴が大半を占める。

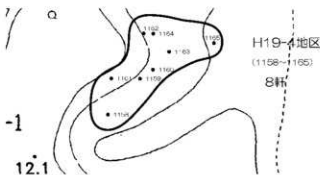
(藤井)

H19-3 地区

本地区は遺跡範囲内の中央部、H19-1 地区の南側、H19-2 地区の西に位置する。H19-2 地区の立地する尾根から連続した細い筋状の尾根に 2 か所の堅穴が独立したかたちで分布している。

堅穴は Na1147 と Na1148 の 2 か所で確認された。いずれも尾根のピークからやや下がった斜面上に立地し、1147 が南斜面、1148 が北斜面に位置する。(藤井)

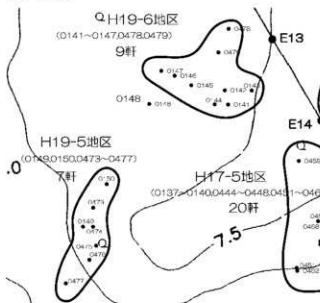
H19-4 地区



本地区は遺跡範囲内の中央部、H19-2 地区の南側約 250m のところに位置する。筋状の尾根ではなく、舌状に張り出す砂丘緩斜面上に立地する。

堅穴は Na1158 から Na1165 の 8 か所で確認された。Na1158 ~ 1161 は尾根のピークから南東に下がった緩斜面部に立地し、Na1162 ~ 1164 が東側の緩斜面上、Na1165 が緩斜面の下端から延びる細い尾根上に立地する。いずれの堅穴も一辺 4 ~ 5 m の中規模の堅穴である。(藤井)

H19-5 地区



本地区は遺跡範囲内の北部、林班杭 15 番の真西約 170m のところに位置する。北東方向 50m に H19-5 地区、西方向 100m に H17-5 地区、南東方向 120m に H17-6 地区がある。立地は北東から南西方向に深く入り込んだ沢、湿地の最奥部にあたり、ゆるやかな緩斜面上になる。

堅穴は Na149, 150, Na473 から 477 の 7 か所で確認された。Na150, 473 から 477 までの堅穴がほぼ南北に連なる標高約 10m の尾根筋上に立地し、149 のみが尾根筋直下の低い平坦面を利用してつくられている。(藤井)

H19-6 地区

本地区は遺跡範囲内の北部、大曲地区の南西端から 50m 西に位置する。北に H17-4 地区、南西側に H19-5 地区、南東側に H17-5 地区がある。立地は東方向に舌状に張り出した緩斜面上で、低い谷を挟んで大曲地区の尾根筋をのぞむ。

堅穴は Na141 から Na147, Na478, 479 の 9 か所で確認された。Na141 から 143 は南に湿地を望む緩斜面上に立地し、Na144 から 147 は南南西から北北東方向に延びる細い尾根上に立地する。いずれも約 4 m 四方のほぼ同形、同規模の堅穴が一列に並ぶという特徴が見られた。Na478, 479 は地区範囲内の最も北側に位置し、北東方向に延びる舌状の緩斜面上に確認することが出来た。(藤井)

単独の堅穴

№0148

H19-6 地区で見られた№144から147までの堅穴が立地する尾根の最上部に立地する。一辺約4.0mと中規模な堅穴で、約0.5mの掘り込みが確認された。

№279

本堅穴は遺跡範囲内の北部、林班杭10番の北東約20mに位置する。北東約30mにはH17-2 地区が所在する。地形は林班杭10番から北東方向に延びる尾根上にあたり、標高約8mの尾根の突端頂上に独立して立地する。その東方向は急崖となっている。堅穴は一辺4.0mと中規模で掘り込みも0.3mと浅いが明瞭な方形である。

№0403

本堅穴は遺跡範囲内の北部、林班杭25番から北西に約100mのところの位置する。西方向100mにはH18-3 地区が所在する。地形はH18-1、2、3 地区が立地する大きな尾根の南西端にあたり、その突端の頂上に独立して立地する。一辺5.0mほどの大型の堅穴で、掘り込みも約0.6mと深い。(藤井)

№1080

林班杭 E38付近で確認した。日本海側へのびる小さな尾根上地形の基部にあたる平坦面に立地する。一辺5.0mほどの大型の堅穴で、深さは約0.5mである。

№1081

林班杭 E37から北東側へ約50mの平坦面に位置する。一辺8mほどの大型の堅穴である。(村田)

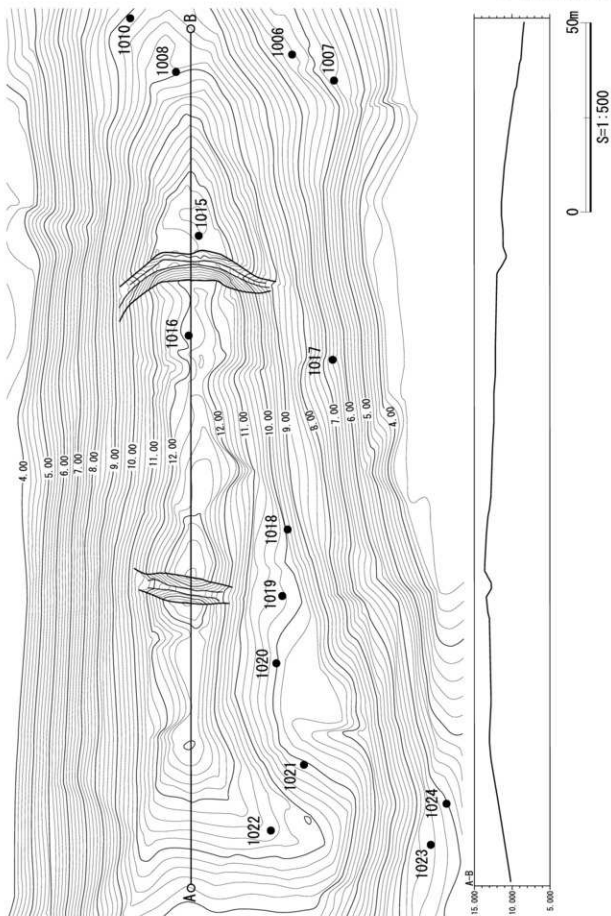
2 チャシ跡の現況

「音類1号チャシ跡(仮)」(図版13・17)

平成17年度の調査で発見された。サロベツ川筋では初めての発見である。林班杭 E41からサロベツ川方向へのびる細い尾根上に位置し、2本の壕間が45mほどである。チャシ本体には一部整地された状況が捉えられるが確認はできない。サロベツ川側の壕は、擦文期とみられる堅穴№1015を壊して造られている。

「音類2号チャシ跡(仮)」(図版20・22)

平成18年度の調査で発見した。H18-5 地区から北東方向へのびる尾根の先端部に位置する。現況は、樹幹が細い白樺等の広葉樹と背丈150cmほどの笹が一面に繁茂している。堅穴確認作業中に、溝状のくぼみを確認し、周辺を踏査した結果、「L」地状を呈することからチャシ跡と判断した。平成19年度から周辺の地形測量を行い、平成20年度も継続する予定である。現時点での知見は、深さ0.5mほどの浅い直線状の壕で区画され、規模は約14m×14mである。南側に開く面崖式のチャシと考えられる。また、南東側の斜面へ向かう壕の一部は切れており、チャシ本体内との出入り口状の構造を呈している。(村田)



図Ⅲ-5 「音類1号チャン跡 (仮)」地形測量図

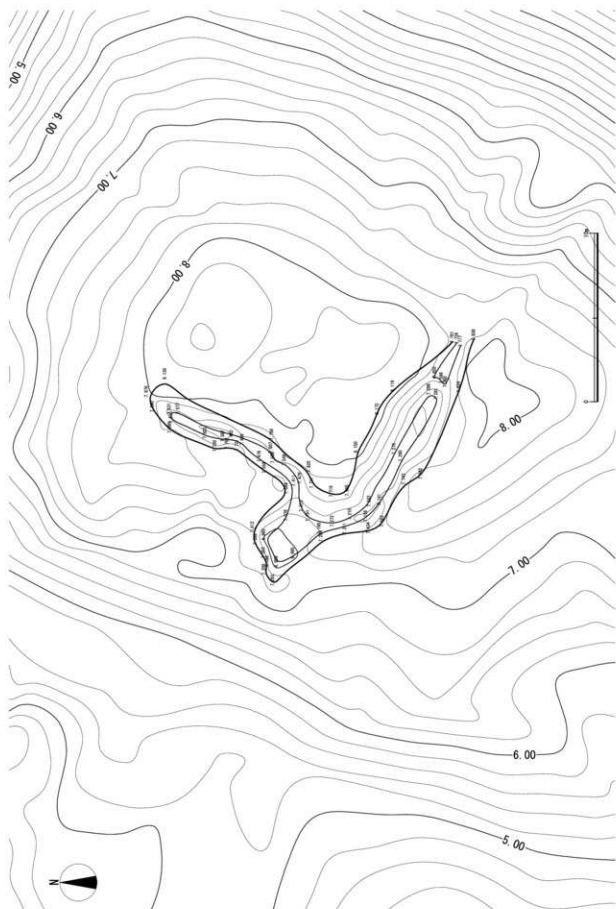


図11-6 「音類2号チャシ跡（仮）」地形測量図（継続測量中）

表Ⅲ-1 豎穴現況一覽

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

表名	表结构	表内容	表备注
表1	表1结构	表1内容	表1备注
表2	表2结构	表2内容	表2备注
表3	表3结构	表3内容	表3备注
表4	表4结构	表4内容	表4备注
表5	表5结构	表5内容	表5备注
表6	表6结构	表6内容	表6备注
表7	表7结构	表7内容	表7备注
表8	表8结构	表8内容	表8备注
表9	表9结构	表9内容	表9备注
表10	表10结构	表10内容	表10备注
表11	表11结构	表11内容	表11备注
表12	表12结构	表12内容	表12备注
表13	表13结构	表13内容	表13备注
表14	表14结构	表14内容	表14备注
表15	表15结构	表15内容	表15备注
表16	表16结构	表16内容	表16备注
表17	表17结构	表17内容	表17备注
表18	表18结构	表18内容	表18备注
表19	表19结构	表19内容	表19备注
表20	表20结构	表20内容	表20备注
表21	表21结构	表21内容	表21备注
表22	表22结构	表22内容	表22备注
表23	表23结构	表23内容	表23备注
表24	表24结构	表24内容	表24备注
表25	表25结构	表25内容	表25备注
表26	表26结构	表26内容	表26备注
表27	表27结构	表27内容	表27备注
表28	表28结构	表28内容	表28备注
表29	表29结构	表29内容	表29备注
表30	表30结构	表30内容	表30备注
表31	表31结构	表31内容	表31备注
表32	表32结构	表32内容	表32备注
表33	表33结构	表33内容	表33备注
表34	表34结构	表34内容	表34备注
表35	表35结构	表35内容	表35备注
表36	表36结构	表36内容	表36备注
表37	表37结构	表37内容	表37备注
表38	表38结构	表38内容	表38备注
表39	表39结构	表39内容	表39备注
表40	表40结构	表40内容	表40备注
表41	表41结构	表41内容	表41备注
表42	表42结构	表42内容	表42备注
表43	表43结构	表43内容	表43备注
表44	表44结构	表44内容	表44备注
表45	表45结构	表45内容	表45备注
表46	表46结构	表46内容	表46备注
表47	表47结构	表47内容	表47备注
表48	表48结构	表48内容	表48备注
表49	表49结构	表49内容	表49备注
表50	表50结构	表50内容	表50备注
表51	表51结构	表51内容	表51备注
表52	表52结构	表52内容	表52备注
表53	表53结构	表53内容	表53备注
表54	表54结构	表54内容	表54备注
表55	表55结构	表55内容	表55备注
表56	表56结构	表56内容	表56备注
表57	表57结构	表57内容	表57备注
表58	表58结构	表58内容	表58备注
表59	表59结构	表59内容	表59备注
表60	表60结构	表60内容	表60备注
表61	表61结构	表61内容	表61备注
表62	表62结构	表62内容	表62备注
表63	表63结构	表63内容	表63备注
表64	表64结构	表64内容	表64备注
表65	表65结构	表65内容	表65备注
表66	表66结构	表66内容	表66备注
表67	表67结构	表67内容	表67备注
表68	表68结构	表68内容	表68备注
表69	表69结构	表69内容	表69备注
表70	表70结构	表70内容	表70备注
表71	表71结构	表71内容	表71备注
表72	表72结构	表72内容	表72备注
表73	表73结构	表73内容	表73备注
表74	表74结构	表74内容	表74备注
表75	表75结构	表75内容	表75备注
表76	表76结构	表76内容	表76备注
表77	表77结构	表77内容	表77备注
表78	表78结构	表78内容	表78备注
表79	表79结构	表79内容	表79备注
表80	表80结构	表80内容	表80备注
表81	表81结构	表81内容	表81备注
表82	表82结构	表82内容	表82备注
表83	表83结构	表83内容	表83备注
表84	表84结构	表84内容	表84备注
表85	表85结构	表85内容	表85备注
表86	表86结构	表86内容	表86备注
表87	表87结构	表87内容	表87备注
表88	表88结构	表88内容	表88备注
表89	表89结构	表89内容	表89备注
表90	表90结构	表90内容	表90备注
表91	表91结构	表91内容	表91备注
表92	表92结构	表92内容	表92备注
表93	表93结构	表93内容	表93备注
表94	表94结构	表94内容	表94备注
表95	表95结构	表95内容	表95备注
表96	表96结构	表96内容	表96备注
表97	表97结构	表97内容	表97备注
表98	表98结构	表98内容	表98备注
表99	表99结构	表99内容	表99备注
表100	表100结构	表100内容	表100备注

[illegible]

IV 関連資料

1 表採資料

土器

この土器は遺跡範囲が国立公園に指定される前、幌延町在住の足達純也氏により「大曲」地区のサロベツ川河岸で採取されたものである。この河岸付近ではシジミ漁の際に土器片があがることが知られており、サロベツ川によって削られた攻撃面側の砂丘露頭から採取されたものと考えられる。

土器片は小破片を含めて80点ほどある。すべて擦文土器で、内訳は口縁部が2点、胴部片が75点、底部片が3点であり、その内復元することが出来た3点の個体と、文様の明瞭な破片9点、計12点を図示した。

1は甕形で、口縁を欠いた胴から底部を復元することが出来た。最大幅は17.0cm、高さは21.7cm、底径は9.5cmである。器形は口縁がやや外反し、頸部がくびれる。胴部はふくらみ、底部が張り出すかたちである。文様は口縁部から胴部上位にかけて横走沈線が施され、その上に等間隔に斜行する沈線が山形に重なるように描かれている。文様帯下部には胴部とを区切るように縦の刻み列が巡っている。胴部から底部付近までの調整はハケである。底部は横方向のナデで調整され、底面には笹の葉の痕跡が認められる。内面はハケで調整された後、ミガキが施されている。土器の表面には炭化物の付着が見られ、内面にも認められる。口縁を欠いてはいるものの、断面に炭化物が付着していることから破損したまま使用されていたものと考えられる。

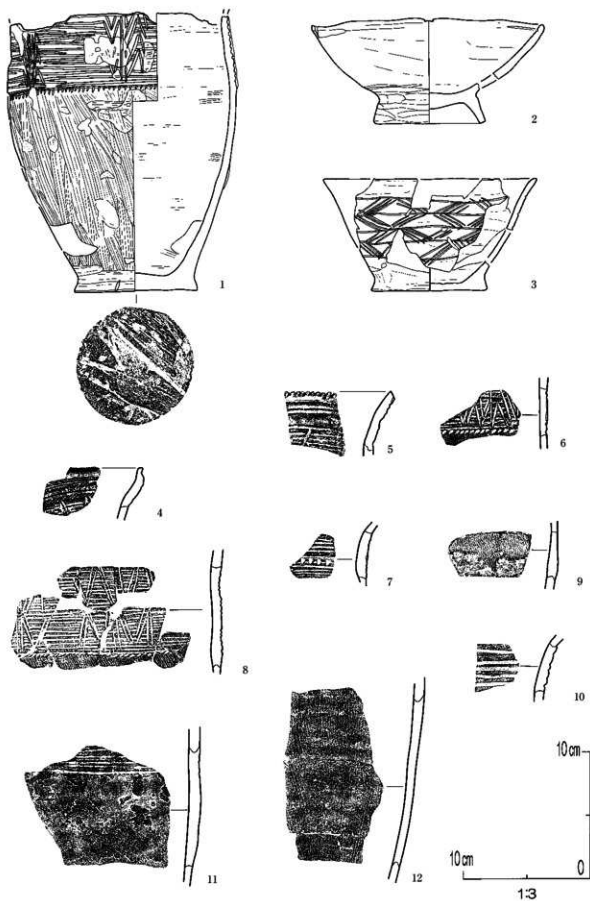
2は高坏である。口縁から底部までを復元することができ、残存率は4分の3程度である。口径は18.0cm、高さが7.5cm、底径が8.5cmである。施された文様は口縁の内外面に見られる1条の沈線のみで、内外面ともに調整はヘラミガキである。また、内面は黒色処理が施されている。

3は埵である。口縁から底部まで復元することができたが、残存率は3分の1程度である。口径は推定16.0cm、高さ9.0cm、底径が8.6cmである。器形は口唇がわずかに外反し、底部が張り出す。口縁から体部下位の間には5条の細い横走沈線と矢羽根状の斜行沈線の組み合わせからなる文様帯が認められる。内外面ともに調整はミガキであり、内面には黒色処理が施されている。

4～6は口縁部破片で、7～12は胴部破片である。

4には短刻文と横走沈線、斜行沈線の組み合わせ、5には口唇直下に刻み列と横走沈線、斜行沈線の組み合わせが認められる。また、5には内外面ともに炭化物の付着が認められる。6は口縁部付近の破片であるが、口唇部を欠している。文様は横走沈線と鋸歯状沈線との組み合わせからなり、胴部のハケ調整部分とを区切るように斜位の刻み列が施されている。7は頸部の破片で、横走沈線と刻み列の組み合わせである。8は頸部の破片で横走沈線を施した後、2本一組の斜行沈線によって鋸歯状文を構成している。また胴部の刷毛目とを区切るように刻み列が施されている。9は胴部片で縦位、斜位のハケ調整がみられ、10は頸部で横走沈線が施されている。11は胴部片で上位に横走沈線、下位は刷目による調整が施されている。12の胴部破片は縦方向のハケ調整の後、ミガキが施されたものである。内面には黒色処理が施されている。なお、土器破片の内側は4～12まですべてミガキにより調整されている。

(藤井)



図N-1 表採資料 土器

V 調査の成果と今後の課題

1 調査成果について

平成17年度から平成19年度の3か年の調査で、確認し位置を記録した堅穴は663軒、堅穴のまとまりとして確認した範囲は30か所である。立地はサロベツ川に面する海岸砂丘から北東-南西方向へのびる尾根上にあるものが多い。分布は6000区の大曲地区を中心とした北部がもっとも多く、5000区で少なくなり、1号チャシ地区を中心とする4000区で再び増える。サロベツ川が砂丘に近いほど堅穴数が増加する傾向がうかがえることから、川と砂丘の距離が分布に影響していると考えられる。

時期について、Ⅳ章で紹介した資料を収集した足達氏によると、大半が大曲地区でサロベツ川が大きく蛇行し、攻撃面の川岸が崩落している部分から出土したものであるとのこと。おそらく大曲地区堅穴No0045と0046付近と考えられる(図版19-2)。出土した糠文土器は9世紀~10世紀代のものが多く、少なくとも大曲地区についてはこの頃の堅穴群であろうと想定できる。

堅穴密集地区の詳細測量は「大曲地区」、「1号チャシ地区」、「2号チャシ地区」について行った。掲載した図は、A1版の付図「大曲地区堅穴現況図」「1号チャシ地区堅穴現況図」の500分の1図のみであるが、重要遺跡確認調査の目的である1000分の1図、堅穴測量での測点標高を図示した100分の1分割図およびこれらの図とデジタルデータを保管している。また、「音類堅穴群堅穴位置図 5000分の1図」は確認した堅穴群の地域を抜粋した図であるが、遺跡群全体の範囲と堅穴Noを図示したA0判図をデジタルデータとして保管している。

堅穴の現況一覧表の位置データは、緯度・経度と公共座標の値を記している。データには携帯型GPSで記録したものと堅穴密集地区の詳細測量に伴い測量会社に委託した実測データがあり、後者を優先している。位置データの記録は、携帯型GPSが緯度・経度で、実測測量は公共座標で記録されるため、それぞれを変換した数値を一覧表に示している。緯度・経度の値を併記したのは、将来的に史跡指定等の作業で現地に入る必要が生じた場合、現地砂丘帯は地形的変化が乏しく目印となる対象物が無い、また、背丈の高い笹原、湖沼地や湿地などがいたるところにあるため、堅穴位置を示した地形図のみで、目標とする地区へ達するのが困難である。そのため携帯型GPSで位置データが利用できるようにとの判断からである。(村田)

2 今後の調査予定について

これまでの調査結果から、継続して表面踏査による堅穴群全体の分布範囲および堅穴位置の記録を実施する。3000区の踏査済み範囲より南側が主な踏査範囲となる。堅穴密集地域の詳細測量は平成19年度から実施している「2号チャシ地区」の堅穴群測量を継続する。当初計画では測量基準点の設置を予定していたが、平成15年度に遺跡範囲が国立公園特別保護地区に指定され、構築物等の設置については非常に難しい状況であると環境省自然保護官事務所との打合せで判断されたため、現地にある営林署の設置した既存林班杭(コンクリート製 約10×10×60cm)を測量することで代替とする。結果については、平成21年度に刊行予定の報告書に記載する計画である。

また、当初計画で、関係機関との調整により、発掘調査が可能であれば、試掘調査を予定していたが、未踏査地域の堅穴がこの3か年の調査結果と同様の分布状況を示すことが予想されること、砂丘列の日本海側を含め遺跡の範囲全体を詳細に踏査する必要があることから、今後は堅穴群の範囲確認

と堅穴位置の記録を最優先として調査を行う計画である。

(村田)

<引用・参考文献>

- 児玉作左衛門・大場利夫 1959 「天塩国豊富遺跡の発掘について」『北方文化研究報告』第14輯
桜井清彦 1964 「北海道幌延町浜里 A 地点遺跡」『日本考古学年報17』日本考古学協会
かいどうしげあき（街道重昭） 1971 「『サロベツ』ノート」『留萌文学』45
幌延町 1974 『幌延町史』
かいどうしげあき（街道重昭） 1984 「天塩ノート」『留萌文学』68
道北地方地学懇話会 1995 「4 サロベツ原野」『道北の自然を歩く』
利尻礼文サロベツ国立公園連絡協議会編 1999 『利尻・礼文・サロベツの自然観察』（第5版）

天塩町教育委員会 1971 『天塩川口遺跡』
天塩町教育委員会 1975 『天塩川口遺跡』
天塩町教育委員会 1978 『天塩川口遺跡』
天塩高等学校資料部 『天塩川口遺跡に関する報告書（遺物編）』
財北海道埋蔵文化財センター 1993 『美沢川流域の遺跡群 XⅦ』北埋調報89集
標津町教育委員会 2006 『史跡標津遺跡群 伊茶仁カリカリウス遺跡』

写真図版

国版1

- 1 道路の遠景（観望ビクターセンターより）
- 2 サロベツ川

国版2

- 1 道路の空中写真（1947.10.9米軍撮影）

国版3

- 1 道路の空中写真（道路北側 1964撮影）

国版4

- 1 道路の空中写真（道路南側 1964撮影）

国版5

- 1 進入路、移動経路等の位置

国版6 （平成11年度 予備的調査）

- 1 道路標柱
- 2 堅穴の状況（大曲地区）
- 3 堅穴の状況（大曲地区）

国版7 （平成15年度 予備的調査）

- 1 堅穴の状況（大曲地区）
- 2 堅穴の状況（大曲地区）

国版8 （平成16年度 予備的調査）

- 1 元天塩高等学校教諭 街道重昭氏
- 2 日高町教育委員会 河内谷修氏

国版9 （平成16年度 予備的調査）

- 1 堅穴の状況（大曲地区）
- 2 堅穴の状況（音類橋北側）

国版10 （平成17年度 本調査）

- 1 大曲地区近景（サロベツ川より）
- 2 大曲地区の様子

国版11 （平成17年度 本調査）

- 1 堅穴の状況（大曲地区）
- 2 「大曲地区」堅穴測量状況

国版12 （平成17年度 本調査）

- 1 堅穴の状況（大曲地区）
- 2 堅穴の状況（大曲地区）

国版13 （平成17年度 本調査）

- 1 「音類1号チャシ跡（仮）」サロベツ川側縁の状況
- 2 「音類1号チャシ跡（仮）」日本海側縁の状況

国版14 （平成17年度 本調査）

- 1 GPSによる測量基準点の設置
- 2 林道保安路の状況

国版15 （平成18年度4月 現地確認）

- 1 雪解け時のサロベツ川（大曲地区）
- 2 雪解け時の沼原（H17～9地区付近）

国版16 （平成18年度4月 現地確認）

- 1 堅穴の状況（大曲地区）
- 2 堅穴の状況（大曲地区）
- 3 堅穴の状況（大曲地区）

国版17 （平成18年度4月 現地確認）

- 1 「音類1号チャシ跡（仮）」サロベツ川側縁の状況

2 「音類1号チャシ跡（仮）」日本海側縁の状況

国版18 （平成18年度 本調査）

- 1 堅穴の状況（H18～5地区）
- 2 堅穴の状況（1号チャシ地区）

国版19 （平成18年度 本調査）

- 1 堅穴の状況（H18～6地区）
- 2 大曲地区前落地の状況

国版20 （平成18年度 本調査）

- 1 「音類2号チャシ跡（仮）」の状況（中央のシタ類が生えていない直線状の部分）

2 「音類2号チャシ跡（仮）」からサロベツ川方向を見る

国版21 （平成18年度 本調査）

- 1 開拓道路の状況（H18～7地区とH18～8地区の間）

2 林道保安路の状況（6000区）

国版22 （平成19年度4月 現地確認）

- 1・2 「音類2号チャシ（仮）」の状況（手前から人の方向へ堤がのびる）

3 「音類2号チャシ（仮）」の状況（画面右下から左上方向へ堤がのびる）

国版23 （平成19年度4月 現地確認）

- 1 堅穴の状況（H18～10地区）
- 2 堅穴の状況（H18～11地区）

国版24 （平成19年度 本調査）

- 1 堅穴の状況（H18～6地区 Na0506）

- 2 堅穴の状況（H19～2地区 Na1149）

国版25 （平成19年度 本調査）

- 1 道路周辺の地形調査状況
- 2 2号チャシ地区の詳細地形測量状況

国版26 （平成19年度 本調査）

- 1 刈分け道路の状況
- 2 開拓道路の状況（4000区）

国版27 （平成19年度 本調査）

- 1 観延町浜里堅穴群遠景（天塩川対岸の砂丘上）

2 天塩町天塩川口道路の状況

国版28 （平成19年度 本調査）

- 1 豊富町豊里道跡遠景（中央の建物付近が堅穴密集地区）

- 2 稚内市オオトマノイ左岸チャシ跡（橋の向こう側に堤が見える）

国版29 （平成19年度 本調査）

- 1 浜里小中学校跡

- 2 稚内市より利用のぞむ

国版30 関連資料 表探資料 土器①

- 1 壺形土器

- 2 高杯形土器

- 3 埴形土器

壺形土器炭化物付着状況

壺形土器同一個体破片

国版31 関連資料 表探資料 土器②

破片資料



1 遺跡の遠景（幌延ビジターセンターより）



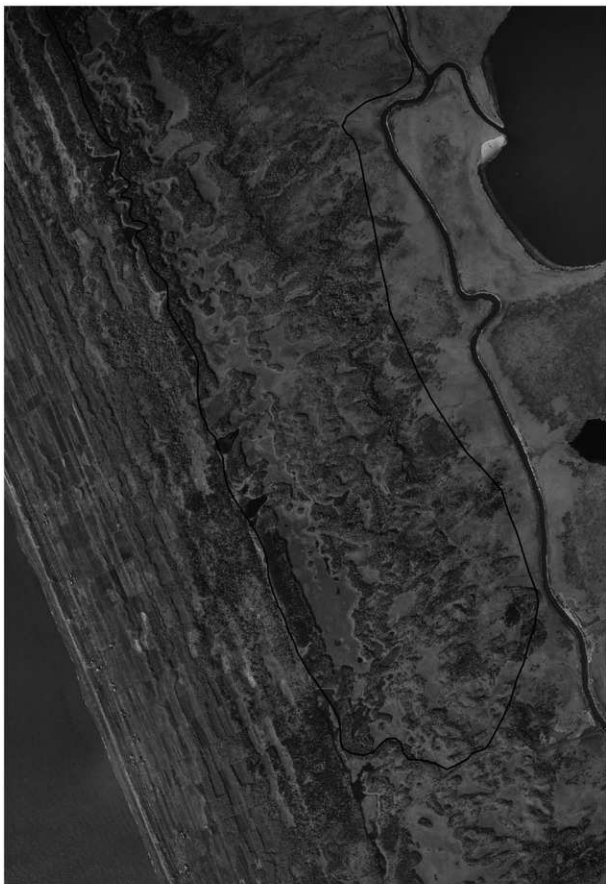
2 サロベツ川



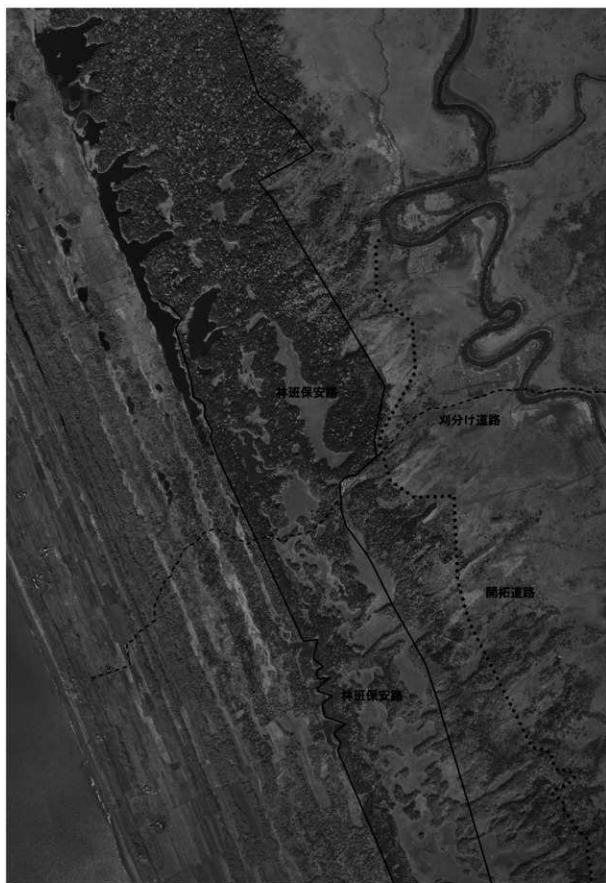
1 遺跡の空中写真 (1947. 10. 9米軍撮影)



1 遺跡の空中写真（遺跡北側 1964撮影）



1 遺跡の空中写真（遺跡南側 1964撮影）



1 進入路、移動経路等の位置



1 遺跡標柱



2 堅穴の状況（大曲地区）



3 堅穴の状況（大曲地区）



1 豎穴の状況（大曲地区）



2 豎穴の状況（大曲地区）

図版 8 (平成16年度 予備的調査)



1 元天塩高等学校教諭 街道重昭氏



2 日高町教育委員会 河内谷修氏